

<b>Title</b>	メタ認知ストラテジーを取り入れた小学校英語の実践
<b>Author(s)</b>	澁井, とし子
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢, 第 28 巻第 1 号, 2015.10 : 155 -171
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5526">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5526</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

〈原著論文〉

## メタ認知ストラテジーを取り入れた小学校英語の実践

澁井とし子

### 抄 録

---

本研究はメタ認知ストラテジーを取り入れた小学校英語の実践報告である。児童が自分で授業の目標設定と振り返りを行う以外に、教師はフィードバックを与えてモニタリングと足場かけを行った。このようなメタ認知ストラテジーを授業に取り入れて、児童のメタ認知<sup>(1)</sup>をあげる試みを行ない、そこから見えてきた児童の変化を追った。目標設定と振り返りをダブルで行うことへの利点を考察する。

---

キーワード：メタ認知，目標設定，振り返り，モニタリング，足場かけ

### 1. 序

小学校英語は2011年より必修化になり、各地で活発に授業が行われるようになってきた。その後数年が経過し、Can-doリストを使用して達成度を振り返るなど進展した研究や活動が盛んに行われている。またこれらを実践している学校も以前より増えているようである。しかし、振り返りは一般的に行われていても、授業の冒頭で児童に自分の目標を決めさせ、それを意識して授業に取り組むということを行っている学校はまだそう多くないようである。そこで本研究では、振り返りを行うだけでなく、目標設定を行うことにも注目し、そこで児童にどのような変化が現れたのかを追った。

### 2. 先行研究

#### 2.1. メタ認知ストラテジー

メタ認知があると自分の認知活動を見直したり、調整したりすることで効果的な学習を自分自身で生み出していくことができる。竹内(2008)は、どのように目標を設定するのかはメタ認知の1つの側面であり、徐々に目標設定をすることで自己効力感は強化されるであろうと述べている。授

業中に学習者が自分の目標を意識して取り組むことで意識が習慣化しメタ認知が上がる。また、振り返りのみを行うのではなく目標設定をすることで、まずは自分の立ち位置・スタート地点を知ることができる。しかし、目標はただ設定するだけでは十分に機能せず、「目標とは、達成行動の前と後に二度機能するのであり、この達成行動後の機能は、学習者が自己評価を行うことで初めて有効となる。」(稲垣, 2003)。そして授業後に振り返りを行うことで、自分の設定した目標がどうであったのか、目標が達成できたのか、もしできなかったとしたら次回どうしたいのか、等の目標と現実とのギャップを知ることができる (Brookhart, 2003)。

## 2.2. 形成的フィードバック

Shute (2008) が形成的フィードバックを提言した。彼によると学習に役立つ具体的アドバイスを与えることが形成的フィードバックであり、学習目標を達成するために達成目標と実現状況を示すとともにその差を示し、次なる目標を示すことで学習者の思考 (thinking)、学習方法 (behavior)、学習観 (learner belief) を修正することを目的に行われる評価結果の戻しである。

フィードバックには、モニタリング (Where you are. Where to go.) と足場かけ (How to get there.) があるが、モニタリングだけでなく、足場かけをすることで学習者の有能感が高まり (Pat El, Tillema & van Koppen, 2012)、こうすればできるということを示すことで学習者は自律的に勉強できるようになる。

## 2.3. 授業の枠組み

Dörnyei (2001) は、「Motivational Teaching Practice」(p. 29) を学習者の動機づけ強化のために提案した。本研究では、児童を少しでも動機づけられた状態にできるよう、授業を以下のDörnyei の4つのステップに従って行った。

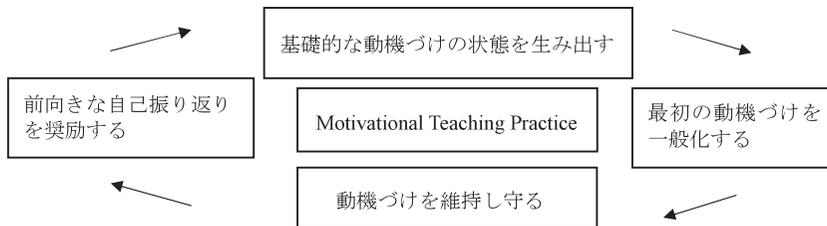


図1 The Components of Motivational Teaching Practice in the L2 Classroom (Dörnyei 2001 p. 29)

### 3. 研究の目的

本研究の第一の目的は、児童が授業の冒頭で自己選択した目標設定を行い、その目標を意識して授業に臨むことの効果を明らかにすることである。本研究の第二の目的は、目標設定に加えて自己の振り返りと教師のフィードバックを与えるというメタ認知ストラテジーを取り入れることで授業に取り組む際、児童にどのような意識の変化が現れるのかを明らかにすることである。

### 4. 研究方法

#### 4.1. 実施時期

2012年4月上旬から2012年12月下旬にかけて実施した。

#### 4.2. 参加者

本実践には、埼玉県さいたま市立S小学校5年生2学級（男子34人、女子25人）59人が参加した。授業は担任、JTE（筆者）とALT（隔週で担当）のチームティーチングで行われた。参加者は、4年生の授業では口頭での振り返りの経験はあるが、授業初めの目標設定と記述による振り返りは今回初めて体験した。

#### 4.3. 測定具

測定具として、児童が使用するステップアップカード<sup>(2)</sup>（資料1）、児童対象の英会話でのステップアップカード使用に関するアンケート（資料2）を用いた。また児童12人へのインタビューも2回行った。インタビューは筆者により録音され、文字に起こされた。

#### 4.4. 手順・調査方法

担任が5年生の授業の一番初めに、このステップアップカードの意味と大切さを日本語で説明し

表1 2012年3月～12月までの調査手順

2012年3月	前年度までの前5年生の取り組みを考慮し、ステップアップカードの内容を検討⇒改訂
4月	授業開始し、ステップアップカードを使用し始める（一人1単元毎に1枚）。
7月	児童にステップアップカード使用についてのアンケートをとる。 児童にインタビュー（担任がランダムに児童を選出）する。
12月	児童にインタビュー（同上）する。
4月～12月	単元終了毎に全員の振り返りを記録し、内容の確認を行う。

表2 メタ認知ストラテジーを取り入れた授業の流れ

- ①単元初回授業の冒頭で担任が今日の単元内容に触れ、各時間の目標の意味を毎回授業で児童に伝える
- ②児童は、今日自分が一番がんばろうとする目標を7項目の中から1項目選んで、チェック☑を入れる(資料1参照)(7項目は教育委員会推奨内容)
- ③数名の児童が挙手して自分の決めた目標を皆の前で発表し、他の児童はそれをしっかり聞く(同じ目標を☑した児童は挙手をした)。
- ④担任は、児童が自分で選んだ目標を意識して授業に臨むよう促す。
- ⑤毎回授業の終わりに振り返りの時間を6~7分設け、児童には自分が目標とした項目が達成できたかどうかを記号◎(よくできた)、○(できた)、△(もう少しだった)で表記させる。
- ⑥児童はカードの下の自由記述欄に日付を書き、各自コメントを記入する。
- ⑦児童に挙手してもらい、自発的に皆の前で振り返りを口頭発表してもらい。教師は口頭でフィードバックを与える。
- ⑧毎回、全員の振り返りカードは集められる。
- ⑨担任が児童のコメントを読み、感想(記述でのフィードバック)を書き、筆者も毎回コメントを読む
- ⑩次の授業までにカードを児童に返却する。 ※①~⑩は、毎時間繰り返される。

た。そして、このカードを使用することで自分の授業目標設定ができ、授業の最後に目標を振り返って、各自が振り返りのコメントを書けることを伝えた。

#### 4.5. 分析方法

アンケートを項目別に分析、自由記述欄はそのまま抽出し、インタビューのコメントを Shute (2008) により提言された教師が形成的フィードバックを行うための3つの観点(学習者の思考、学習方法、そして学習観)に分類し、内容を検証した。全員のステップアップカードを筆者が読み、一人一人の変化を追った。その中からメタ認知が上がっていると思われる児童を7人選び、どのような気づきが挙げられたか拾い出した。教師がどのようなモニタリングを行い、どのような足場かけをしているのか、7人への記述フィードバックにも注目した。

## 5. 研究結果

### 5.1. 英会話“ステップアップカード”についてのアンケート結果 (資料2参照)

- ①英会話の初めに、先生が「今日は○○をしますよ。」と説明すると何をするのがわかっていい。

はい 男子 94% 女子 92%

授業で何をやっているのかわからないと心配になることから、単元・レッスン目標の意味を伝えたと、わりやすいという9割の回答があった。児童からは、「いきなり授業を始めるよりはいい。」とコメントがあった。



⑦ 英会話の後、“ステップアップカード”で◎、○、△をつけてがんばったかどうか振り返るのは、

自分にとって役立つ

はい 男子 91% 女子 84%

⑧ 英会話の後、コメントを書けるのはいい

はい 男子 91% 女子 88%

理由：・自分が今日授業で何をしたのか、どのようにがんばったのか、そして英語が楽しめたかが振り返られていい。

- ・自分を振り返ることは、役に立つことで、次にどうしようかがわかっていい。
- ・コメントを書くことは楽しいし、口頭でも書いたのを見てクラスで発表できるのでいい。
- ・先生に今日、どんだけがんばったかを書けるのでいい。
- ・振り返りを書くことと記録にもなり、どれが1番おもしろい活動だったかも印象に残っていい。
- ・友達の良い点も書いて、口頭で書いた後に発表できるので、友達の振り返りも聞けるからいい。

いいえ・コメントを書かないともっとゲームができる時間が取れる。

- ・心の中で振り返れば書かなくてもいい。
- ・時間内にコメントが書ききれない。

⑨ 振り返りをして、できているところがあると自信がつく

はい 男子 85% 女子 80%

⑩ 振り返りをする事で次がんばろうと思うことがある

はい 男子 91% 女子 84%

振り返りをする事で、自分がどのように臨んだのか、出来具合はどうであったのかがわかるため、それによって次回どのようにがんばろうとするのかがわかるようである。

## 5.2. 目標設定と振り返りに関するインタビュー結果（7月と12月に実施）

（インタビュー 男子6人、女子6人：担任がランダムに選出）

7月

1. ステップアップカードがあるといいですか？ はい：男子 100% 女子 83%

2. ステップアップカードを使うと自分の目標がたてやすいですか？

- ・ステップアップカードがあった方が目標がもてる。
- ・前にやったことが振り返られる。
- ・感想の所で前へ振り返ってこんなことができたとわかる。
- ・前の目標を振り返って今日に生かせる。
- ・目標選びをする時にちゃっちゃとつけた時にあまり効果がない。
- ・時間を使うのでどちらでもいい。

3. 振り返りでできていると自信がつかますか？
  - ・次に生かせそうで、できていると自信になる。
  - ・微妙である。(女子1人)
4. 振り返りでできなかったところは次がんばろうと思いますか？
  - ・振り返りでできなかったところは次に新しい気持ちになるので、頑張ろうと思う。
  - ・あまり思わない。
5. 今日どんなことをやるのかわかると英語もわかりやすいですか？
  - ・言わないと何をやっているのかわからない。
  - ・今日どんなことをやるのか(単元目標)がないと何をやっているのかわからない。
  - ・どんなことをやるのかがあるとわかる。

12月

1. ステップアップカードがあるといいですか？ はい：男子100% 女子83%
  - ・目標が果たせたかわかって、果たせなかったらもっと果たそうと思うから。
  - ・自分の目標が考えられる。
  - ・カードがあった方が意識して取り組んでいる。
  - ・カードがあった方がチェックできている。
  - ・目標を決めチェックを入れることは、授業中どこを目標にしているかがわかるし、できていたかどうかを振り返れるためいい。

目標設定があることで、先の物と振り返りという後の物との比較ができる点がインタビュー結果からわかった。また、カードを保持することで、記録として残せ、前を振り返り、読み返すことも可能となった。
2. ステップアップカードを使うと自分の目標がたてやすいですか？
  - ・ステップアップカードがあった方が自分の目標が考えられる。
  - ・感想の所で前へ振り返って前はそんなことを思っていたのか、今と考えが変わっているとわかる。
  - ・他教科はステップアップカードはなく、英会話のように自分も取り組んでいない
3. 振り返りでできていると自信がつかますか？
  - ・自信がつく。
4. 振り返りでできなかったところは次がんばろうと思いますか？
  - ・振り返りをすると次へやる気になる。
  - ・前のダメなところを次に生かせる。
  - ・すぐくたまに次がんばろうと思う。
5. 今日どんなことをやるのかわかると英語もわかりやすいですか？

・(全員が)やる気になる。

※4年生のカードがなかった時と比べて5年生の授業はどうですか？

・カードがあった方が前の反省ができる。

・目標が決められるのでやりやすい。

・いろいろな目標に挑戦することができる。

・カードがないと目標を忘れてしまうので、今日これができるというのがあるとわかりやすい。

4年生の時と比べて5年生になり、目標設定を行うことで意識して授業に取り組んでいることがわかる。7月と12月のインタビュー結果を比較すると、それ程大きな変化は見られないが、両方から「振り返ってこんなことができたとわかる。」「今と考えが変わっているとわかる。」などの表現が現れた。以下は、Shute (2008) により提言された教師が形成的フィードバックを行うための3つの観点に添って児童のコメントを分類した。

#### 学習者の思考・頭の使い方 (Thinking)

自分の目標が考えられる。意識して取り組んでいる。自分の目標が考えられる。振り返りをすると次へのやる気になる。次がんばろうと思う。やる気になる。目標が決められるのでやりやすい。今日これができるというのがあるとわかりやすい。

#### 学習方法・行動 (Behavior)

目標もてる。前にやったことが振り返られる。前の目標を振り返って今日に生かせる。果たせなかったらもっと果たそうと思うから。チェックできている。目標を決めチェックを入れることは、授業中どこを目標にしているかがわかる。できていたかどうかを振り返れる。前のダメなところを次に生かせる。いろいろな目標に挑戦できる。

#### 学習観・定着してしまった思い込み (Learner belief)

できていると自信になる。できなかったところは新しい気持ちになるので、がんばろうと思う。前へ振り返って前はそんなことを思っていたのか、今と考えが変わっているとわかる。前へ振り返ってこんなことができたとわかる。

### 5.3. 児童の振り返りコメントと担任のコメント

※【 】内は、同じ担任が7人の児童にコメントしているフィードバックである。文末に児童がコメントを記述した日付を添付している。

#### 児童 A (女子) (資料4参照)

- ・はじめてだったけどみんなとコミュニケーションがとれてよかったです。次も特に声に気がつけたいです。【いいですね。どんだん声に出していつのまにか英語で話せているようになっていたら、すてきですね。がんばっていきましょう！】4/24
- ・カードを交換するときに話しかけられなかったので、次は誰とでも話しかけられるようにがんば

る。【すばらしいですね。こういう反省ができたこと、とても大切です。少し勇気があるかもしれませんが、みんないっしょです。がんばってこう！】5/1

- ・目標ができました。次は「はっきりとした声ではなす」をやりたいです。最後のゲームでKさんははっきりとした声だったので、私もそのことをがんばりたいです。【いいですね。もう次回の目標があるのですばらしいですね。】7/12
- ・最後のゲームでKさんに教えてあげられたのでよかったです。目標も達成できたのでよかったです。次回は、「目を見て話す」をがんばりたいです。9/11
- ・目標の「目を見て話す」はできたけれど、ジェスチャーが上手く出来なかったので、次はジェスチャーを入れて相手と会話したいです。【少しずつでもジェスチャーをまぜながら話せたらいいです。】10/2

児童B (男子)

- ・みんな表情が明るかったので今度まねしようと思いました。今度はジェスチャーをもっとつけたいと思いました。【とてもいいふり返りができてきますね。また、みんなのよさをみてくれたこと、うれしいですね。次からもこういう気持ちで取り組んでいきましょう！】4/24
- ・前回とはちがってジェスチャーをいっぱいつけられました。他もよくできました。次回は全部◎がつくようにしたいと思いました。【やったね。どんどん明るい表情で話すことができていましたよ。ジェスチャーのよさも分かってきたようですね。】5/1
- ・いろいろな人に話せたので良かったです。アイコンタクトもまえよりはできました。【声の大きさや友達とのやりとりはバッチリですよ！】7/3
- ・しっかりと声とスマイルができたのでこのままつづけたいです。【今日のがんばりもすばらしかったです。声がとても聞こえましたよ。】11/6

児童C (男子)

- ・今日ははじめてのえいごかつどうなので楽しく活動することができました。【みんなでどんどん英語で話そうとしてくれましたね。】4/24
- ・ほくが分からないところをともだちにきいたらともだちが教えてくれました。ほくもその人のように英語を教えられるようになりたいです。【すばらしいですね。こういう関係の中で学習がすすめられていること、いいですね。】5/22
- ・今日は外国のマナーを身につけることができました。じかいはこのもくひょうをいかしていきたいと思いました。【いいですね。どんどん声に出して話してみましよう。】9/25
- ・今日は非常にいい声でいえたので次回はまちがえることなくやっていきたいと思いました。もっとつづきたいことを思ったりしました。【とてもいい声で会話することができていましたよ。】11/20

児童D (女子)

- ・友達とのコミュニケーションがとれたので、楽しかったです。来週もがんばりたいです。【どんどん増やしていきましょう！ はっきりとした声で、友達とのやりとりを自信をもってこなしていきましょう】5/1
- ・ショップキーパーをやりました。とってもTさんの言葉の使い方がじょうずでした。【よく友達の様子を見ていてくれましたね。うれしいです！】5/29
- ・自分からボランティアに取り組めて良かったし、前回に引き続き男女関係なく話しかけられてよかった。【どんどんみんなの前に出て英語に自信をもってください】7/12
- ・男子にも自分から声をかけられたのでよかったです。でもジェスチャーをつけることができなかったなので、今回はジェスチャーをつけて会話をしたいです。【上のレベルにいきますね。とてもいい反省、目標だと思いますよ。】11/27

児童E (女子)

- ・はじめての英会話で少し不安だったけれど、ちょっとした楽しいゲームがあったので楽しかったです。相手の目も見れたのでよかったです。【不安が楽しさに変ったこと、すばらしいですね。英語を声に出すことで楽しさが感じられたのだと思います。この調子で取り組んでいきましょう！】4/24
- ・友達とカードを交換する時、相手の目を見て大きな声で話せました。新しい先生に「笑顔がいいね」と言われたのでよかったです。【やったね。ぜひこの笑顔をみんなに見せていってくださいね。アイコンタクトはしっかりできていましたよ。】5/1
- ・文ぼう具の名前をちがう名前覚えていたけれど、ボールペンではなくちがう名前があっぴくりしました。仲間を見つける時うまく言えなかったから、こんどはうまくいいたいです。【どんどんチャレンジしていきましょう。まちがえが自信になっていきますからね！】5/8
- ・ジェスチャーで表現をしてそれを言葉に表すことでは、相手の目を見ました。もっと自信をもって話したりしたいです。【とてもよくなってきて、自信も感じられますよ。この調子でいきましょう。】10/23
- ・自分のまわりについて分かったし、英語でも言えるようになったのでよかったです。他にももっと調べてみたいです。【しっかりと理解し、自分の考えを何とか伝えたいという意識が強くなりましたね。】11/13

児童F (男子)

- ・大きい声で発音できたのでよかったです。次ははきはきしゃべれるようにしたいです。【さらに上をめざしたコメントですね。がんばろう！】10/2
- ・はっきりとした声でしゃべれた。笑顔をもっと表にだしたらよかった。【ここをがんばっていきましょう。】10/23

- ・いろいろな遊びを英語で言うことができよかったです。今日おぼえた遊び以外にももっとしりたいです。【遊びの言い方も英語になると変わってくるのもありましたね。覚えていけたらいいですね。】 11/20
- ・大きい声でしゃべれてよかったです。N君がニコニコしていったから、次回はまねしたいです。【今日のデモンストレーションでの話し方、とても声ははっきりしていてよかったです。】 12/6

#### 児童G (男子)

- ・今日は文房具のカードゲームをしてとても楽しかったです。言えなかった英語が今日はなかったのよかったです。次からも英語をなんでもいえるようにがんばりたいです。【この気持ちです。またがんばっていきましょう。】 5/22
- ・今日はちゃんと相手の目を見て話せました。友達のNくんはとてもはっきりとした声でちゃんと聞こえやすい声だったので、ほくはNくんのことをみならいたいです。【Nくんのアイコンタクトはとても自然でいいですよ。N君のよさもよく見てくれましたね】 7/12
- ・今日は誰にでも話しかけられてよかったです。今度はもっとせっきょくてきに話しかけられるようにしたいです。前回の課題をクリアできました。今度ははっきりと話したいです。【すばらしいですよ。どんどんがんばっていきましょう。毎回、チャレンジしていくことが大切ですね。】 10/2
- ・今日友達と話そうと思って話しました。とくにがんばったことは、はっきりとした声ではなすことでした。その目標ができたのよかったです。【とてもきちんと、そしてがんばって伝える意欲が伝わってきました。この調子でいきましょう！】 11/13

### 5.4. 目標設定の効果

7人の児童をサンプルとして取り上げたがどの児童にも共通してみられるのが、「今日は○○だった。」「次は（今度は）○○したい。」というように今日何を目標として自分が取り組み、その達成度がどうであったのか、それによって次回はどうしたいということが自主的に記述できている。目標があることで実際にどこまで達成できたのか、たとえ達成できなくても次回はどうしたいかというコメントがあることから、振り返りのみを行うのではなく、目標設定することは効果的であることがわかる。

やはり目標を自己決定することで、教師から与えられたものよりも自分で意識できており、更に自己目標に自分でチェックを入れることで決めたことを覚えていて、意識して授業に臨んでいる。

### 5.5. メタ認知ストラテジーを取り入れた効果

#### 5.5.1. 教師のフィードバック（モニタリング・足場かけ）

児童が自己の振り返りを行い、それを記述でコメントすることで教師が全員の振り返りを把握で

き、筆者も読むことができ、次の授業内での足場かけが可能となった。児童も自分が今どこにいて、次はどこを目指したいのかが記述できている。どのように次へ行くのかも数回同じことを試み、中で自分なりの学び方を探れている。教師の適切なアドバイスにより、児童のメタ認知が内面化しているととれる。

このように教員のモニタリングと足場かけを行って授業を行うことで、ただ授業を受けて終わりということが避けられる。今回目標が達成できていれば児童本人の自信と次回への動機づけにもなり、また次回はどうしたいのか、どうしたらいいのかが児童にとっても明確になったことがわかる。

#### 5.5.2. 児童の振り返りの変化

ステップアップカードを使用することにより、複数の児童に変化が見られた。第一に振り返り時に書く児童のコメントも4月にはおおざっぱであったものから、夏以降にはより詳しい、具体的なコメントへと変化した。ただ「活動が楽しかった」、「カードがたくさん取れた」などいうものから、何ができて何ができなかったのかにも触れられるようになった。また、仲間との関わりの中で、「友達のこういう点を見習いたい。」「〇〇さんのようになりたい。」「〇〇さんにこんな風にしてもらって嬉しかった。」という振り返りも出るようになった。早い児童は5月ぐらいから、全体としては7月ぐらいから自己評価だけでなく、相互評価も多く見られるようになった。このことを通して児童は次なる目標決めのヒントにもしていることがわかる。女子は恥ずかしがり屋になり、控え目になるが、コメントを書くことで外には現れない、心の声をコメントから読み取ることができ、教師にも利点となっている。口頭での振り返り発表は、クラス全体で発表を分かち合うことができるという点で優れているが、記述の振り返りは、口頭での発表が苦手な児童も自分の頑張りを教師に伝えることができ、また書いたものが記録として残るので、児童自身が振り返り、過去の記録を見直すことに使用し、自分の頑張りの記録として保持できるという点で優れている。

## 6. 考察

まず初めにただ振り返るのではなく、そこに口頭や記述といった工夫をし、周りからのサポートや褒められることがあって児童が成長できることは効果的であると言える。更に振り返りだけでなく、最初に自分の目標設定があると目指していたものと現実との間を知ることができる。先行研究でも述べられていた通り、目標と現実とのギャップを知り、そこをどのように埋めていこうとするのが大切である。ただし、目標設定も機械的に適当にしているようでは、効果が出ないとの回答がある。視覚だけで目標設定をしていた数年前の5年生よりも、目標を自己決定しチェックを入れ、目標を意識して臨むことで、今回はどのようながんばりであったのか、次回はどうしたいのか、何を目指したいのかが自然と児童から出てくるようになった。更に目標が先生から与えられたり、人から決められたりするのではなく、自分で決定できることで目標が明確になり、効果的であること

が考えられる。また、目標が達成できれば自分の自信になることはもちろんであるが、自分の満足だけでなく、そこに教師や仲間からの褒めことばが加わると児童は周りから認められていると感じ、自己効力感が増していることが児童のコメントから読みとれた。

教師が児童一人一人に毎時間、記述のフィードバックを行うことは容易なことではないが、この記述でのやりとり、及び授業中の教師のモニタリングが子供に安心感と自信をもたらし、「次回はまたがんばりたい。」と児童が思う気持ちになっている。そしてどのようにしたらより自分たちの学びがよくなるのかを考えられることから、児童のメタ認知が上がって、前向きに取り組めるようになっていくことがわかる。以上のことから、メタ認知ストラテジーを取り入れ、教師の形成的フィードバックを与えることで、児童は振り返りだけを行うよりも先に目標を持つことで次への学習の橋渡しができるのではないだろうか。

## 7. まとめ

今回の目標設定の目標内容は、小学校でのコミュニケーションの素地を養うための項目となっており、教育委員会が推奨する内容となっている。今後は内容をもっと詳細な物に変更し、1箇所を空欄にして児童が自分独自の目標を設定し、記入できるようにすること等も必要であろう。ステップアップカードの内容をもっと精査することで、児童がより近接性があり、チャレンジングな目標設定を行い、授業に取り組めるよう検討する必要がある。この研究は、質的研究であるため、目標設定と振り返りを通して児童の認知面の変化を分析した。目標設定と振り返りを行うことが児童のメタ認知を上げ、将来の自立した学習者になれるよう、小学校英語の強化に貢献できることを願っている。

### 注

- (1) 認知を認知すること。人間が自分自身を認識する場合において、自分の思考や行動そのものを対象として客観的に把握し、認識すること。
- (2) S小学校で使用していた目標設定と振り返りを行うカードの名前

### 引用文献

- 稲垣善律 (2003). 「外国語教育における動機づけの強化—目標の近接性と自己評価の役割—」 東京大学外国語教育学研究会研究論集7号 21-32.
- 竹内 理 (2008). 「第6章 メタ認知と英語学習」 小寺茂明・吉田晴世 (編) 『スペシャリストによる英語教育の理論と応用』 東京: 松柏社.
- Brookhart, S. M. (2003). Developing measurement theory for classroom assessment purposes and uses. *Educational Measurement: Issues and Practice*, 22(4), 5-12.
- Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Pat El, R., Tillema, H., & van Koppen, S. W. M. (2012). Effects of formative feedback on intrinsic

motivation: Examining ethnic differences. *Learning and Individual Differences*, 22(4), 449-454.  
Shute, V. J. (2008). Focus on formative feedback *Review of Educational Research*, 78(1), 153-189.

資料

## ステップアップカード

5年(Grade) \_\_\_\_\_ 組(Class) \_\_\_\_\_ 名前(Name) \_\_\_\_\_

**単元名 給食大好き!**  
レ 今日がんばろうとするところ    ◎よくできた    ○できた    △もう少し(コメントあり)

項目	月 日	レ	◎	○	△	レ	◎	○	△	レ	◎	○	△
今日の表現を伝えたり、聞いたりする。 誰にでも話しかけようとする。 はっきりとした声で話す。 相手に体を向け、目を見て笑顔で、聞いたり話したりしようとする。 外国のマナーを身につけようとする。													
ジェスチャーや表情、聞きとった言葉を手がかりに伝えたり、聞いたりできる。 ジェスチャーや表情、英語を使って理由をつけながら伝える。													
英語によるコミュニケーション活動は楽しかったですか。													
月 日	気がついたこと、先生に伝えたいことを書きましょう。												
6/6	今日の最後のゲームで「I like ~」「I don't like ~」 を言ってみて伝えてよかった。お店の人のために話 せました。Sさんは目を見てスマイル したの、見習いたい。お礼の言葉を聞かせてくれた。												
7/3	今日「初めて話しかけようとする」が、よくできたと思っ たり。お礼の言葉を聞かせてくれた。Helloの時に手を 合わせた。声は小さめだったが、次は大きな声で話 したい。思っています。注音符が自然に出る。												
7/12	目標ができました。お礼の言葉を聞かせてくれた。K さんはお礼の言葉を聞かせてくれた。お礼の言葉を聞 けてくれた。お礼の言葉を聞かせてくれた。お礼の言葉を 聞かせてくれた。お礼の言葉を聞かせてくれた。お礼の 言葉を聞かせてくれた。お礼の言葉を聞かせてくれた。お 礼の言葉を聞かせてくれた。お礼の言葉を聞かせてくれた。												

資料1

(児童Aのステップアップカードの一部)

英会話“ステップアップカード”についてのアンケート

質問をよく読み、をしてください。  5年生  男  女

1. 英会話の初めに、先生が「今日は〇〇をしますよ。」とせつめいすると何をすることがわかっていい。  はい  いいえ

2. 英会話で何をすることがわからないと不安になる。

はい  いいえ

3. 英会話の時に使っている“ステップアップカード”は、あったほうがいい。

はい  いいえ

それは、どうしてですか？\_\_\_\_\_

4. “ステップアップカード”に目標をすると授業に取り組みやすい。

はい  いいえ

5. 自分で今日がんばるところを決められるのはいい。  はい  いいえ

6. 授業中、自分がしたところは、特にがんばろうと思って取り組めた。

はい  まあまあ  いいえ

7. 英会話の後、“ステップアップカード”で◎、○、△をつけてがんばった

かどうか振り返るのは、自分にとって役立つ。  はい  いいえ

8. 英会話の後、コメントを書けるのはいい。  はい  いいえ

それは、どうしてですか？\_\_\_\_\_

9. ふり返りをして、できているところがあると自信がつく。  はい  いいえ

10. ふり返りをする事で次がんばろうと思うことがある。  はい  いいえ

以上でアンケートは、終わりです。ありがとうございました。

資料2

## A Study of How Meta-Cognitive Strategy Works in Elementary School English Classes

Toshiko SHIBUI

### Abstract

---

This is a practical paper on elementary school English classes which introduces meta-cognitive strategies. This study discusses the effects of setting students' class goals at the beginning of each class, having self-evaluation, and having students write their own comments at the end of each class so that they can receive positive feedback from teachers and their peers in each class. Furthermore, teachers can and should give formative feedback, such as monitoring and scaffolding, to the students in every class. This study also analyzes the students' changes, the process of raising meta-cognition through students' self-evaluations, and the advantage of setting goals and having self-evaluation at the same time.

---

**Key words:** meta-cognition, goal-setting, feedback, monitoring, scaffolding